

●写真①



●教材1

清水慎一しみずしんいちさんは、長野けん県のケーキ屋さんのオーナー・パティシエです。8月8日を「夢ゆめケーキの日」として、世界に広めようとしています。清水さんは、夢ケーキの取り組みで、こんなことを行っています。

●写真②

〈夢ケーキ〉



●写真③

〈清水慎一さん〉



子どもたちに、家族で話し合った自分のしよつ来の夢を絵にかいてもらいます。その絵をもとに、ケーキしよく人たちがイメージして、一つ一つを実さいのケーキの形にして子どもたちにわたしています。この夢ケーキは、毎年ふえつづけ、今では、1000こをこえるケーキをわたしました。

●教材2

「夢ケーキの日」は、近所で起こったある事けんがきっかけになっています。それは、高校生の男の子が父親に暴力をふるい、ケガをさせるというものでした。清水さんはこの事けんを知り、こう思いました。

「自分の店の近くで起きたこの事けん。この子はうちのケーキを食べたことがあっただろうか。ケーキには人を幸せにする力がある。もし食べていなかったのなら、うちのケーキを食べてほしかった。そうしたら、少しはよろこんでもらえたり、悲しみが晴れたかもしれない…」

また、清水さんが、夢ケーキをつづけていくうえで、大切にしている言葉があります。それは、清水さんが高校生の時に、おばあちゃんやお母さんから聞いたこの言葉です。

人のために、人がよろこぶ仕事を
しなさい

●教材3

清水さんは、ケーキをむりようでわたすことだけが話題になるのは、自分の思いとはちがうと言っています。

そして、子どもたちには、

「何があってもあきらめないで、希望をもちつづけてほしい」

とねがっています。

最初、清水さんが夢ケーキの日を行うと言ったとき、まわりの人たちに「そんなことできるわけがない」と言われたそうです。

しかし、清水さんの考えにきょう力してくれるケーキ屋さんたちが、最初の年は3人、次の年は5人、その次の年は9人とふえていきました。

そして、2010年、日本記念日協会から8月8日が夢ケーキの日としてみとめられました。今では、きょう力してくれるケーキ屋さんは、300以上になりました。

清水さんからのメッセージ

みなさん、こんにちは。清水慎一です。ぼくは、長野県でケーキを作っています。パティシエです。

みなさんには、いろんなしよ来の夢があると思います。その夢を大切に大切にしてもらいたいな、と思います。

夢は、かならずかなうと思います。どんな夢でも、自分があきらめなければ、かなうと思います。

お父さんやお母さんや、学校の先生、友だちを大切にしてください。そうすれば、かならずみなさんの夢に近づけることができると思います。

そして、わくわくしながら、早く大人になって、ぼくたちといっしょに、明るい世の中をつくっていきましょう。みなさんとお会いできる日を楽しみにしています。





